

メッセージアウトライン

ガラテヤ 3：6~9「信仰による人々」

「アブラハムは神を信じ、それが彼の義とみなされた」(6)とは創世記 15:6 のことばである。アブラハムは正しかったから義と認められたのでも、立派だったから義と認められたのでもない。彼が義と認められたのは神を信じたからなのである。だからパウロは、「信仰による人々こそアブラハムの子孫だと知りなさい」(7)と言う。

アブラハムとの血のつながりによる子孫、つまりイスラエル人こそが神の祝福を受けると考えるのがユダヤ教である。しかし、パウロはこのような考え方の誤りを示すために次のことばを語る。「聖書は、神が異邦人をその信仰によって義と認めて下さることを前から知っていたので、アブラハムに対し、『あなたによってすべての国民が祝福される。』と前もって福音を告げたのです」(8)

ここでは「聖書は……知っていた」と擬人法が用いられている。何を知っていたのか。それは、「神が異邦人をその信仰によって義と認めて下さること」をである。では、それはどれくらい前からか。それは永遠の昔からのことであった。

Ⅰペテ 1:4「神は私たちを世界の基の置かれる前からキリストのうちに選び、御前で聖く、傷のない者にしようとされました」

ここで言う「私たち」とはユダヤ人、異邦人を問わず、信仰によるアブラハムの子孫のことである。これらのことからわかることは、神の救いは決してイスラエル民族だけのものではなく、全人類のためのものであるということ、そしてそれは旧約時代、新約時代にかかわらず、始めからそのように決まっていたということである。ただ、時間的な順序があって、神はまずイスラエル民族を選び、次に彼らを通して全人類に福音が及ぶようにされた。 ロマ 11 章

これらのことを「聖書は前から知っていた」と言う。創世記が書かれた時に、聖書はすでに新約時代を見通し、黙示録の世界も見通していたと言える。そのようにして神は新約時代において成就される異邦人の救いを旧約時代においてアブラハムに前もって語り、「あなたによってすべての国民が祝福される」と言われたのである。これこそまさに旧約時代において前もって語られた福音であった。このようにしてパウロは人が救われるのは、行ないではなく信仰によるということの正しさを立証する。

「そういうわけで、信仰による人々が、信仰の人アブラハムとともに、祝福を受けるのです」(9)

祝福を受けるのはアブラハムだけではない。イエス・キリストを信じる信仰による彼の子孫すべて(その中には私たちも含まれる)が祝福を受けるのである。

アブラハムが神を信じ、義と認められ、その生涯が祝福されたものとなったように、イエス・キリストを信じる者もまた信仰によって神の前に義と認められる。イエス・キリストを信じる前には決して知ることのなかった罪の赦し、喜び、感謝、祈りの生活を送り、また永遠のいのちを持ち、有形無形さまざまな祝福が与えられる。神はイエス・キリストにあって信じる者を祝福してくださるのである。